RPJ News

2026 年 3 月号

特定非営利活動法人（NPO法人）
精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project
〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801
毎月1回発行
発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守
E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

ホームページ http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/

内 容

＊ イギリスにおけるリカバリー研修ツアーの報告（15）
○ 早期介入チームにおける個別配置と支援（IPS）の実施（3）
マイルスさん
＊ 事務局から再度のお知らせ
メンタルヘルスとウエルフェア第 9 号発刊しました。

＊ イギリスにおけるリカバリー研修の報告（15）

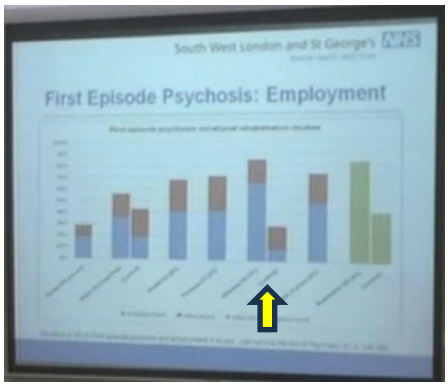
○ 早期介入チームにおける個別配置と支援（IPS）の実施（3）

マイルスさん

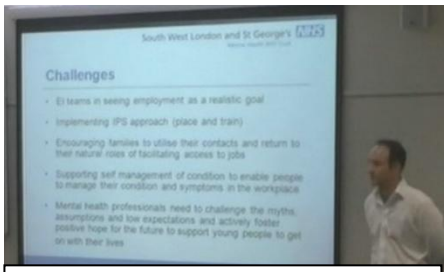
（マイルス）このグラフは 7 つの調査について纏めたものです。

最初のグラフは一般的なリサーチ結果で、沢山の研修を受けたのち学業や就労するというものです。赤が学業で青が就労、全体で成功率は 30％弱です。

5 番目のグラフがオーストラリアでの調査です。右のグラフは一般的な調査で、これでは最初のグラフと同じような結果となっています。しかし左のグラフは厳密に条件を精査した調査で、こちらでは 3 倍位の成功率となっています。



（シェパード）これまでの繰り返しになりますが、就労支援ワーカーが医療従事者とチームになって共に働くという事が、成功のためには非常に重要なことなのです。それから調査の方ですが、若者の調査では 3 倍の結果に繋がっていますが、成人の調査でも 2 倍という結果が出ています。



課題
・雇用を現実的な目標と捉える取り組み
・IPS アプローチ（配置と研修）の実施
・ペアコンタクトを活用し、就労機会を創出するという本来の目的への回帰を促す
・職場における自己管理とシステム化を支援することで、人々が自身の状態を管理できるようにする
・メンタルヘルス専門家は、固定観念や低い期待に疑問を呈し、若者が人生を歩み続けられるよう、未来への前向きな希望を積極的に育む必要がある

（マイルス）成功している部分は多くありますが、でも未だチャレンジすることは残っています。そして就労支援プログラムを我々は持っておりますが、全ての地域で持っている訳ではありません。

早期介入チームは、現実的なゴールとして若者が雇用状態に戻ることだという事を確信することが、未だまだ課題なのです。

また就労支援ワーカーが医療従事者と共に働いているチームでも、先ほどの 7 つの要素が確立されておらず従来の状態で働いているチームもあります。

そしてチームは、若者のゴールが就労状態に戻ることだという事を確信して働くという事が重要なのです。

それから考えなくてはいけないことは、家族が就労に向けて何らかの役割を持つという事です。イギリスでは、若者が最初の仕事を獲得する時に、親が重要な役割を持っています。

（シェパード）就労支援チームが仕事を見つけるよりも、親が見つけるほうが可能性は高いのです。精神障害を抱える子供が仕事に就くためには、精神保健サービスを信頼し共同して働くという信頼感を持つことが重要になります。

（マイルス）仕事を得るために頑張っている若者たちは、その中で自分の症状に苦しんでいることが有ります。ですからその時の課題は、問題を抱えながら自己管理する方法を見つけていくという事になります。
最後の課題は、精神保健に係わる専門職のかた自身が固定観念にとらわれてしまい、若者が達したいと思っているゴールを信じてあげる事が出来ないという傾向が、未だまだ存在するという事です。
この様に未だまだ課題は多くあります。

（シェパード）これまでスティグマの話は何回か出ましたが、最も問題なのは精神保健の専門家が持っているスティグマなのではないでしょうか。

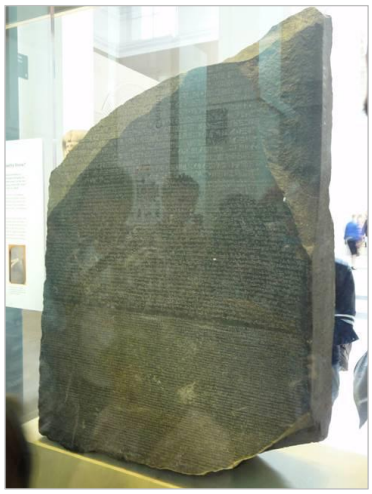
（助川先生）私は精神保健の専門家として長年精神障がい者に係わってきました。そしてその経験から言うと、「この人はこれしか出来ない」「この人はこれしか出来ない」と考えてしまい、我々自身が一番希望を持っていなかったのです。そして、これが間違いだという事に気づきました。日本では障がい者に就労支援やトレーニングすることに対し、政府は多額の支援金を出しています。しかし障がい者一人ひとりに、「あなたは何がしたいですか」「あなたは何がしたいですか」と質問するようになったのは、最近のことです。

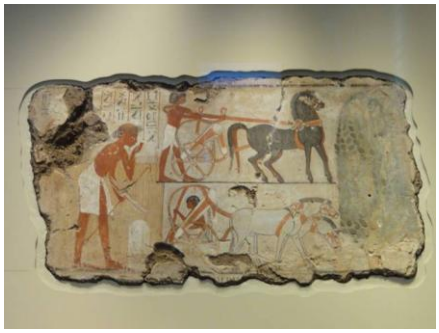
（マイルス）これがリカバリー志向に焦点を当てたサービスのチャレンジという事です。どの様にして本当の希望を聞き出すか、そして彼ら望んだことをするために、本人に決定をする権限を与えるか、という事になります。雇用についても同じことが言えます。臨床チームと家族、そして就労支援ワーカーが繋がって、共同して、患者さんの目標に向けて活動しることです。そしてこれはとても巨大なチャレンジと言えるでしょう。

有り難うございました。

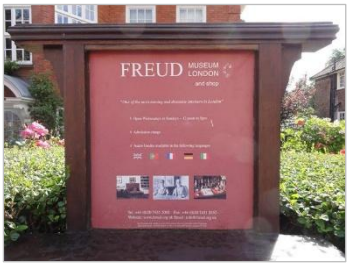
ロンドンでの記録

＜大英博物館＞





＜フロイト博物館＞



＊ 事務局から再度のお知らせ

メンタルヘルスとウエルフェア第 9 号発刊しました。

メンタルヘルスとウエルフェア第9号 2025年12月1日発行 ISSN 1881-3089

ザ・ヴィレッジ ISA

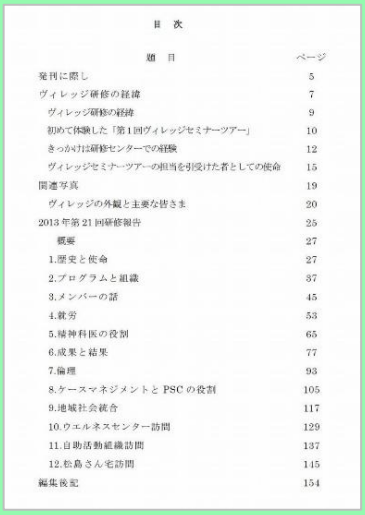
The Village Integrated Service Agency

研修の経緯

2013年第21回研修報告

特定非営利活動法人

精神保健福祉交流促進協会


目 次

題 目	ページ
発刊に際し	5
ヴィレッジ研修の経緯	7
ヴィレッジ研修の経緯	9
初めて体験した「第1回ヴィレッジセミナーツアー」	10
きっかけは研修センターでの経験	12
ヴィレッジセミナーツアーの担当を引受けた者としての使命	15
関連写真	19
ヴィレッジの外観と主要な出きま	20
2013年第21回研修報告	25
概要	27
1.歴史と使命	27
2.プログラムと組織	37
3.メンバーの話	45
4.就労	53
5.精神科医の役割	65
6.成果と結果	77
7.倫理	93
8.ケースマネジメントと PSC の役割	105
9.地域社会統合	117
10.ウエルネスセンター訪問	129
11.自助活動組織訪問	137
12.松島さん宅訪問	145
編集後記	154

メンタルヘルスとウエルフェア

第 9 号

ザ・ヴィレッジ ISA

研修の経緯

2013 年第 21 回研修報告

サイズ：A5

ページ数：154 頁

定価：2,000 円（税込み）

※本号は、本紙 2023 年 3 月号から 2024 年 3 月号まで掲載しました研修報告を中心に、研修の経緯や写真等を追加して書籍化させて頂きました。

ヴィレッジセミナーは故谷中輝雄初代理事長がやどかりの里時代の 1995 年に始めたもので、2002 年第 9 回より我々精神保健福祉交流促進協会が引き継ぎ運営し、2013 年第 21 回を持って終了となりました。

そして本書は、最終回となった第 21 回研修を忠実に文章化したものです。

精神保健の書として、またヴィレッジの記録書としてご覧いただけると幸いです。

ご希望の方はメール（ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp）にてお申し込みください。

代金（送料込み￥2,000）は発送時にお知らせする銀行振り込みで、お支払いください。

大変申し訳ございませんが、振込手数料のご負担をお願いします。

－編集後記－

いつも RPJNews をご覧いただき有り難うございます。2011 年実施のイギリス報告は 15 回目の本号を持って終了となります。

コロナ禍で皆様に原稿をお願いする難しさから、過去の海外セミナーをご参加いただいた皆様の感想では無く、講師（通訳）の言葉を文字起こしし皆様にお伝えしたいとの思いから本企画はスタートしました。2019 年実施のイタリア報告は 2020 年 8 月号から全 19 回、2013 年実施のヴィレッジ報告は 2023 年 3 月号から残 12 回、そして今回イギリス報告が完了したことになります。

多くの皆様の活動は平常運転に戻られたこととお察し申し上げます。そこで RPJNews も平常運転に戻したく、会員の皆さま関係者の皆様に「活動報告原稿」をお願いしたいと思いますので、是非ご投稿ください。宜しくお願いします。

4 月号以降の RPJNews は皆さまからのご投稿を中心に纏めさせていただきますが、海外研修報告についても次のステップを考えています。それは協会の原点であるヴィレッジセミナーを再度振り返ってみようという事です。

本協会は「やどかりの里」からヴィレッジセミナー業務を引き継ぐため 2002 年に設立し 2003 年に NPO として活動を開始しました。そしてヴィレッジセミナーは 2002 年の第 9 回から主催しております。しかし記録が残るのは 2004 年第 11 回からとなりますので、こちらの報告を始めたいと考えております。（仁木）

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会